



# ミュージック・シェアリングのニュース

## ICEP 2024 の訪問国が変更されました

今年末、ちょうどクリスマスの頃、アジアで最も貧困な国と言われるバングラデシュを訪問することになっていましたが、国内の治安状況が悪く、外務省の“不要不急の渡航禁止”に従って2016年に行ったネパールの再訪問に変更しました。そう、あの時は日本とネパールの国交樹立60周年であり本来ならお祭り気分に乗ることができるかな、とわずかに期待しましたが、前年の大地震で字のごとく、“ぶっこわれた”日常の国でした。まだ仮設校舎やぼこぼこの道、運動場が物置になっているところでみんなで音楽を楽しみました。この写真はネパールのフルケダングラ村の様子です。



## 五嶋みどり理事長がHope Concertを企画

12月のネパール訪問を前にして、今年元旦に起こった能登大地震の被害に遭われた方々に〈希望〉を届けます。ピアニストの藤田真央さんと小コンサート(無料)を企画しました。現地では田中滋人さんというスーパーボランティアが頑張っておられます。この活動は理事長個人の企画によるものですが、私たちも応援しています。



田中滋人さん



## ミュージック・シェアリングの活動が紹介されました

Play & Joy! で訪問している和歌山県有田町立八幡小学校の学校だよりにて、ミュージック・シェアリングの活動をとても素敵にご紹介いただきました!

第2回文化庁芸術家派遣事業がありました!

9月2日(月)に、認定NPO法人ミュージック・シェアリングのサポート・アーティストの皆さんが来校くださり、鑑賞と演奏体験を行いました。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの音色に耳傾け、その後は、ヴァイオリンとチェロに分かれ、1人1挺を手に練習しました。3・4年生と5年生は「キラキラ星」、6年生は「カエルの合唱」です。サポート・アーティストの皆さんに教えていただきながら、

きれいな音色を奏でていました。

次回は「Play&Joy!」(認定NPO法人ミュージック・シェアリングの事業)として、演奏練習を中心に実施します。第3回は、鑑賞の後、児童による演奏発表を予定しています。～中略～  
「創立150周年のよき思い出」となることを願っています。次回も楽しみです。

～やはたNo.12 一部抜粋～

ミュージック・シェアリングのHPやfacebookからも詳細をご覧ください。

## 認定 NPO 法人ミュージック・シェアリング

〒102-0083 東京都千代田区麹町2丁目5-18 半蔵門ハウス601

☎ 03-6256-9733 📠 03-6256-9734 🌐 <http://www.musicsharing.jp/>

✉ [info@musicsharing.jp](mailto:info@musicsharing.jp) ✉ @npomusicsharing 📱 @npomusicsharing

担当者:野本、今村



助成: EXPO'70 FUND (公財) 関西・大阪21世紀協会

助成: POSC 一般社団法人 パチンコ・パチスロ社会貢献機構

助成: 公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

助成: 公益財団法人 朝日新聞文化財団

協賛: kikkoman UACJ kao DYNATREK

このミュージック・シェアリング便りからの無断掲載はお断りいたします。



# ミュージック・シェアリング だより

## 訪問プログラム2024 [秋]

# Music sharing







みなさま 皆様、こんにちは。今日は2024年10月20日です。もうすぐ秋の訪問コンサートが始まりますね。私とICEPカルテットが春に訪問した参加校、施設にミュージック・シェアリングの協力アーティストが行くのは、まるで私の兄弟か、いとこたちが共通の友人に会いに行くようで、毎秋には、グリーンと家族の輪が広がるようでもあり、今ではちょっと遠くなった景色ですが、いわし雲の下でお米の穂が垂れて、いよいよ収穫。のにおいがしてきます。「夏の思い出」、「もみじ」、来月には「雪」、その次はもう「お正月」に。高齢者施設・病院でも小中学校でも親しまれている、心を癒すベストテンの常連です。四季を越えた仲間入りの曲、ホラ、「さんぽ」はまだまだニューフェースです。来校してくれるアーティストにリクエストしてみませんか。

2024年10月 認定NPO法人ミュージック・シェアリング 理事長 五嶋みどり

## ギター

### 楽器紹介

音楽が生まれたのはいつで、どこからきたのでしょうか？みなさんは考えたことがありますか？例えば今から2000年以上前のギリシャでは、すでに弦楽器と管楽器という2タイプの楽器が演奏されていたそうです。その時に登場した弦楽器が、現在のギターの始まりだとされています。ギターは弦楽器の中でも、指、またはピックで弾くことによって演奏する“撥弦楽器”の仲間です。クラシック音楽、フラメンコのほか、ジャズ、ロック、ポピュラー音楽等幅広いジャンルで用いられます。クラシックギター、フラメンコギター、フォークギター、エレキギターなど、演奏する音楽に合ったギターの種類があり、弦の数も、基本的な6本の他に、4本、10本、12本、18本など種類があります。今回みなさんに聞いていただくのは、6本の弦がある「クラシックギター」です。



### 演奏予定曲

ミュージカル映画『オズの魔法使い』より「オーバーザレインボー」 ハロルド・アーレン作曲／ローリンド・アルメイダ編  
映画『サウンド・オブ・ミュージック』より「私のお気に入り」 リチャード・ロジャース作曲／閑喜弦介編

## 豆知識～ギターと作曲家

ギターと聞いて、みなさんはどんな音楽をイメージしますか？きっとふだん耳にするポップスやフラメンコの印象が強いです。ギターは意外にも、クラシックの作曲家や演奏家たちからも愛された楽器でした。

まず、かの有名な“運命”の作曲家ベートーヴェン（1770-1827）は、「ギターは小さなオーケストラである。」と評価していました。たくさんのピアノ曲を作ったショパン（1810-1849）は「優れたギターほど美しいものは他に考えられない。」と言い、“火の鳥”の作曲家ストラヴィンスキー（1882-1971）は、「ギターは音が小さいのではなく、遠くで鳴っているのである。」と、その素晴らしさを語っています。また、ヴァイオリンの名手であるパガニーニ（1782-1840）は、ギターの演奏方法をヴァイオリンの演奏に活かしたとも言われています。パガニーニは、旅行の時もギターを持ち歩くほどのギター好きで、ギタリストでもありました。



### 村治奏一

お父さんの手ほどきでクラシックギターを始め、その後、福田進一氏、鈴木大介氏のもとで勉強をしました。1996年、14歳の時に学生ギター・コンクールで優勝。1997年には、クラシカル・ギター・コンクール、1998年には別の2つのコンクールで続けて優勝しました。1999年よりボストン近郊にある総合芸術高校ウォルナット・ヒル・スクールに留学し、2003年に首席で卒業。同時期に発表したデビューアルバム「シャコンヌ」は、レコード芸術誌の特選盤に選ばれました。2006年にワシントンD.C.のジョン・F・ケネディセンターソロリサイタルを行い、本格的な米国デビューを果たしました。以降、様々なツアーにソリストとして抜擢され、成功させています。2013年、S&R財団ワシントン・アワードを受賞。これまでに10枚以上のCDアルバムを発売しているほか、最近では、インターネットでの配信や、オーケストラと共演し大ホールでの演奏から、カフェなどの小さな場所でのライブ公演、そしてテレビの出演まで、いろいろな場面で活躍しています。

### New Face!

みなさんこんにちは、村治奏一です。僕にとってのNew Face（新しく始めたこと）はずばり、「A.I.村治奏一」です！皆さんは「ChatGPT」って聞いたことありますか？昨年登場した「人と同様に会話ができる人工知能」です。最近、このChatGPTを使って僕の分身「A.I.村治奏一」を作りました。このA.I.村治奏一は、僕の代わりに24時間お客様のご質問にお答えするだけでなく、演奏会の案内などもしてくれるんですよ。僕自身が忙しい時でも、代わって皆さんに最新情報を届けてくれる、頼もしい相方のような存在です。ぜひ、僕の公式サイトでA.I.村治奏一に話しかけてみてくださいね！

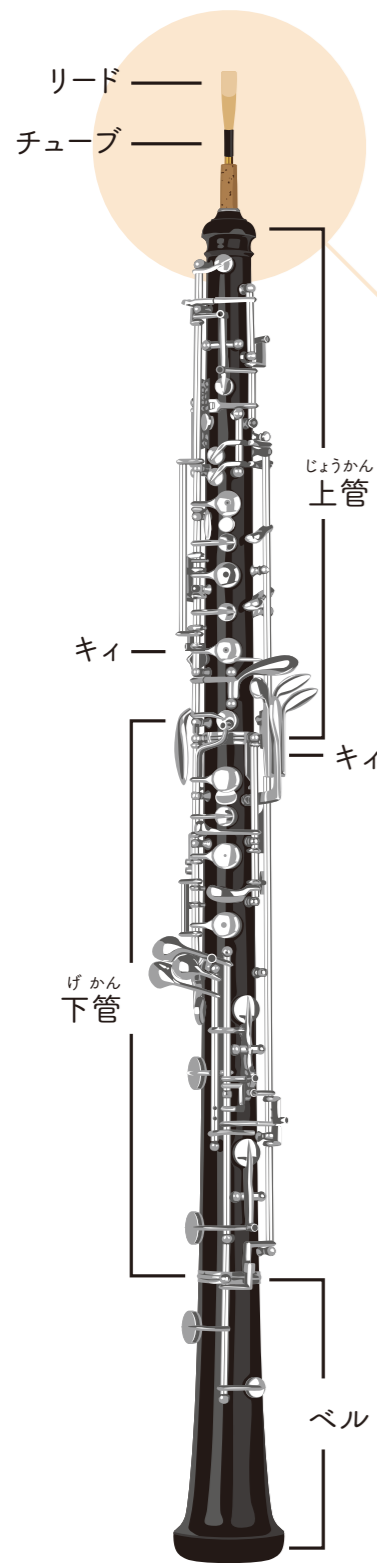
### 博士のつぶやき

村治さんは協力アーティストとして2010年からMSのこのプログラムで華麗なるギターの演奏とお話を下さっています。ギターは楽器を両手で抱きかかえるようにして演奏するんですね。まさしく、村治さんの思いを大切に皆様に届けておられる、そう思いませんか。昨年、沖縄で次の日の活動を前に海辺で民宿された夜、キッチンのおばさん、宿のおじさんとお茶を飲んでいたら、村治さんが、おもむろに「アルハンブラの思い出」を奏でられ、「夢のようで、忘れられないプレゼントをいただきました。」と感激のお手紙が寄せられました。



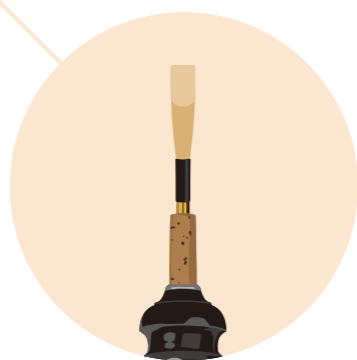


# オーボエ



## 楽器紹介

オーボエの名前は、「高い音の木」という意味のフランス語“haut bois”が由来です。現在のオーボエの型は室内楽用に改良されたもので、17世紀頃、それまで弦楽器だけだったオーケストラにバロックオーボエとしてデビューしたとされています。その後、バロックオーボエからフランス式、ドイツ式、ウィーン式などへと進化し、現在ではコンサートが始まる前にオーケストラの音合わせで基準になる楽器となっています。



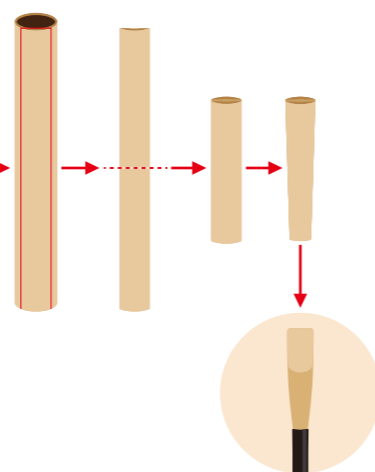
## 豆知識～リードって何？

楽器の、音を生み出す部分を「発音体」といいます。木管楽器の発音体のことを「リード」と呼び、オーボエのリードは、「葦」という植物を薄く削って作られます。

リードは消耗品（数回使ったら使えなくなってしまうもの）なので、演奏者自らが製作します。リードの作り方が演奏に大きく影響するので、リードを作る技術が大切になるのです。



葦  
あし



## 演奏予定曲

「リベルタンゴ」 アストル・ピアソラ作曲

歌劇『トゥーランドット』より「誰も寝てはならぬ」 ジャコモ・プッチーニ作曲

「情熱大陸」 葉加瀬太郎作曲

## 豆知識～オーボエと昔話

みなさんは楽器が登場する昔話をいくつか知っていますか？ ブレーメンの音楽隊、ジャックと豆の木、ハーメルンの笛吹き男…。これらのお話は世界中で知られる昔話ですが、もっともっと古いお話があります。それは、2700年以上前から伝わり、神様が登場する『ギリシア神話』です。その中に、なんとオーボエが出てくる部分があります。

昔、アテナという月の女神様がいました。アテナはオーボエの基となる楽器を発明しましたが演奏が難しく、「拾った人を不幸にする呪い」をかけて捨ててしまいます。さて、マルシュアスという半獣（体の半分が人で、もう半分が動物）がそのオーボエを拾い、練習して上手になりました。調子にのったマルシュアスは、芸術の神様アポロに楽器での競争を挑みますが、負けてしまい、罰を受けることになるのです。



## 荒絵理子

小さなころは引っ込み思案で、いつも人の陰に隠れているような子どもでしたが、興味のあることや大好きなものには没頭してしまうところもありました。オーボエとの出会いは中学生の時。フルートが打楽器を演奏したくて吹奏楽部に入りましたが、どっちもすでに希望者でいっぱい、代わりに勧められたオーボエを始めてみることにしました。しかし、それまで色々な楽器をやらせてくれたお父さんに大反対され、逆に悔しくなり、絶対にオーボエをやる、と決心しました。その後もオーボエを続けて東京音楽大学に進学し、日本管打楽器コンクールで入賞、日本音楽コンクールでは1位になりました。出光音楽賞というとても名誉ある賞も受賞し、現在は東京交響楽団で首席オーボエ奏者として活躍しています。2013年から2014年にかけてドイツのハンブルグ音楽院に留学し、ドイツと日本を行き来して、演奏活動と勉強に打ち込みました。

## New Face!

わたしにとってNew Faceと言えば！昨年9月に生まれた私の子供です。

生まれた時から、泣くこと、ミルクを飲むこと、お座りすること、食べること、ハイハイすること、歩くこと、ものを掴むこと、笑うこと、おしゃべりすること、自分の欲を出すこと…などとどんどん新しいことが出来るようになるばかりです。

今回のコンサートではじめてオーボエを聴いてくれるお友達が多いと思いますが、いい音楽、いい音を聴いて、このはじめての経験がずっと心に残ってもらえたら！と今からより気合いが入っています。

みんなに会えること、とっても楽しみです！

## 博士のつぶやき

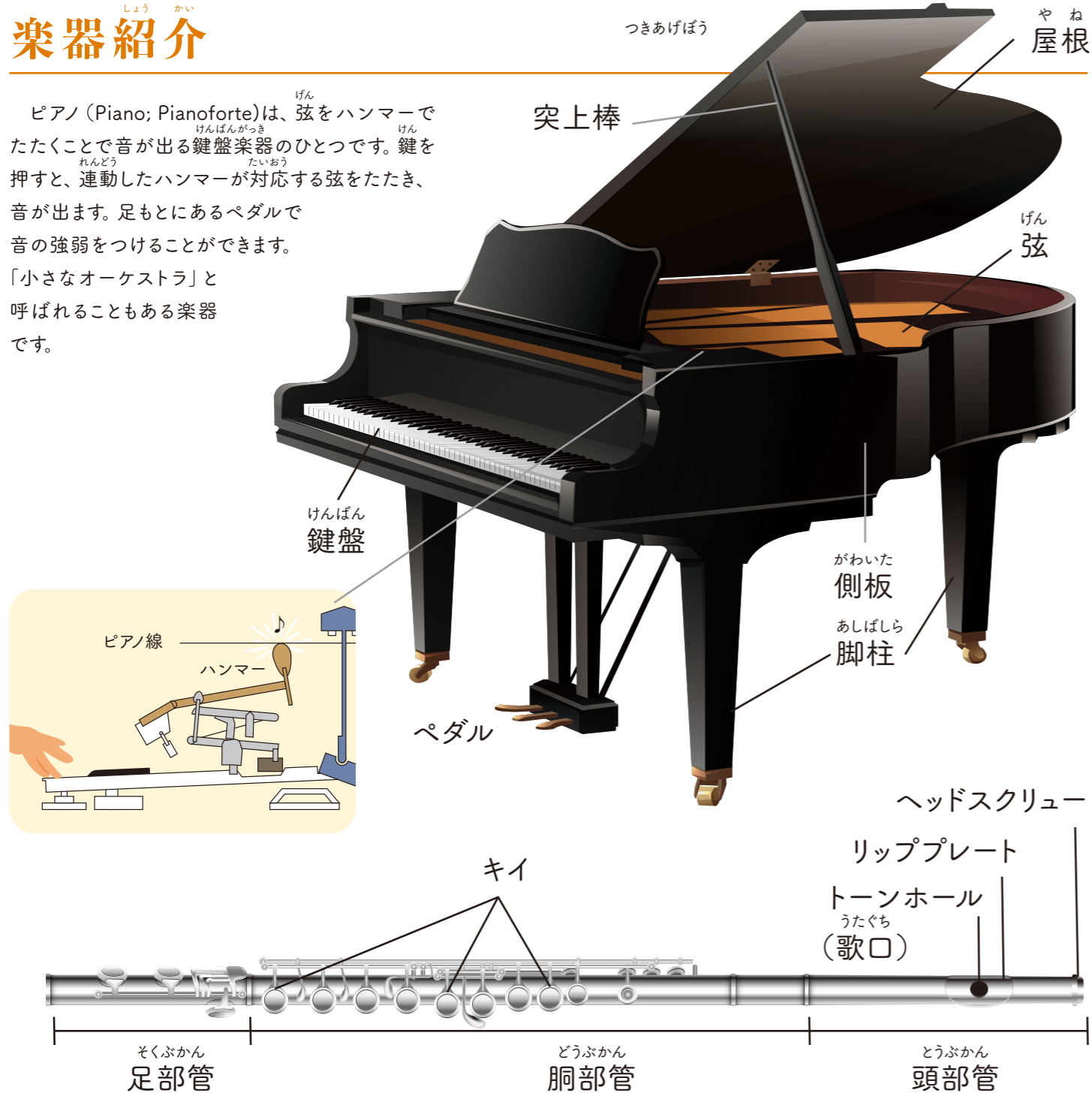
昨年、お子様の誕生で、このプログラムはスキップ。今年は関東圏でカムバックしていただきました。オーボエが地味で他の楽器よりお稽古を始めようとする人が少ないのはワシも知っておる。だがね、オーケストラ（多くの楽器と一緒に演奏する合奏）で一番最初に音を出すのが、オーボエなんだよ。全員の音の幹となる「A」の音はこれだぞ。と楽団員に聴かせるためだ。今度オーケストラのコンサートに行ったら是非確かめてみよう。



# ピアノ&フルート

## 楽器紹介

ピアノ (Piano; Pianoforte) は、弦をハンマーでたたくことで音が出る鍵盤楽器のひとつです。鍵を押すと、連動したハンマーが対応する弦をたたき、音が出ます。足もとにあるペダルで音の強弱をつけることができます。「小さなオーケストラ」と呼ばれることもある楽器です。



## 演奏予定曲

『アルルの女』第2組曲より「メヌエット」 ジョルジュ・ビゼー作曲  
映画『となりのトトロ』より「さんぽ」 久石譲作曲、中川季枝子作詞



## 村上史昂 [ピアノ]

お家にあったピアノを遊びで弾いていたら、お母さんに「ピアノ習ってみる？」と聞かれて「うん!」と答えました。それをきっかけピアノを始めることになりました。しばらくしてステージで弾くことは大好きになりましたが、練習は大嫌いで毎日お母さんと喧嘩していました。中学高校と野球部でキャッチャーをやっていたので、いかに突き指をするか(練習をお休みできるので)、いつも考えていました。大学生になってからオーケストラと出会い、指揮を始めました。指揮は東京藝術大学という个性的な仲間がたくさんいるところで勉強しました。指揮の練習は嫌いじゃないので最近毎日楽しく暮らしています!今ではピアノも大好きになりました!



## 幸賀美奈 [フルート]

幼稚園の頃、先生が弾いていたピアノを帰ってきて真似をして弾くことが大好きで、昔から歌うことやピアノを弾くことが大好きでした。フルートには小学4年生の頃に出会いました。他の楽器もとても興味があつたのですが、フルートの美しい音色に憧れてフルートを始めました。フルートと出会ってからはどんどん好きになり、今まで続けてこれています。中学と高校は部活動を頑張つて、コンクールにも沢山挑戦しました。大学は東京藝術大学に進学し、音楽が大好きな仲間と共に4年間学んできました。現在はソロや室内楽、オーケストラで活動しております。フルートは沢山の音を吹くので、それにつられて私は沢山喋るようになってしまいました。私とたくさんお話ししましょう!

## New Face!

訪問コンサートに参加するのは2回目です。以前ミュージック・シェアリングの活動のひとつ「楽器指導支援プログラム」で、サポート・アーティストの指導のもといくつかの楽器やコーラスが日ごろの結果を発表する「合同演奏会」で指揮をしました。感激しました!特に最後の曲「MIDORI Song」を特別支援学校の生徒たち、みどりさん、ICEPカルテットのメンバーが演奏し、お客さまと一緒に歌う時には、代え難い音楽のエネルギーが目の前で燃焼し、忘れられない思い出となりました。今回はピアノ奏者として、フルートの幸賀美奈さんと演奏します。幸賀さんは、もちろん、フルートの演奏も素晴らしいですが、フラウト・トラヴェルソという、現在のフルートに発展する前の横笛の研究もされていて、そんなお話を聞けるかもしれません。同じ大学で学んだ仲間です。



## 博士のつぶやき

ピアノの村上さんは昨年度より東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団の、指揮研究員にも就任されました。ミュージック・シェアリングの合同演奏会の指揮や、理事長五嶋みどりと共演して下さったり、彼は賢い人らしいが、優しいお兄さんという感じが否めないね。このプログラムでも時折、難しいことを説明するな。と思ったんだが(わしの感想) そんな時はすかさず、「わからん」と言うんだぞ。ピアノは10の音が一気に出せる、それに両足のペダルがある。その上最近ではピアノ自体をたたいたりこすったりして“音”とする現代音楽、も現れた。わたしにはクラシックがよろしい。少々年齢を取り過ぎたかな、...





# サクソフォン



## 楽器紹介

サクソフォン (Saxophone)は1840年代初頭に、ベルギー生まれの楽器製作者アドルフ・サクスが金管楽器の良さも取り入れた木管楽器を目指して発明した楽器で、彼にちなんだ名前がつけられています。ピカピカに光る、円すい管の形も美しく、その音色は艶やかで、管楽器の中では人の声に最も近い楽器とも言われています。

## 演奏予定曲

「愛の挨拶」 エドワード・エルガー作曲

喜歌劇『天国と地獄』より「序曲」 ジャック・オフエンバック作曲

## 博士のつぶやき

サクソフォンにはいくつか種類があるんだね。華やかで喜びを謳歌する曲、体の奥にズーンと響く音、行進曲にぴったり、みたいな曲。山本先生はミュージック・シェアリングの特別支援学校でも指導されていて、サクス、トランペット、フルート、と一人何役?で、先生の悩みは、クラスに合わせて満員電車で学校に向われる時のご苦労。わかるかな? 複数の楽器を持ち運ぶその重さはなかなかなもの。座席に座れないこともあり、立ったままの移動。体力づくりも大変に違いない。でも演奏は、天に届く音、そのもの。さっすがー。



## 3サクソフォーンズ

### 山本直人 [サクソフォン]



管楽に出会ったのは中学校の吹奏楽部でした。はじめはバスクラリネットという楽器を演奏していました。その後高校生になった時にサクソフォンに変わり、音楽大学で大学院まで勉強しました。サクソフォンには色々な種類があり、高い音が出る楽器から、ソプリロ、ソプラニーノ、ソプラノ、アルト、テナー、バリトン、バス、コントラバスとたくさんの種類があります。よく使われているのは、アルト、テナー、バリトンですが、どのサクソフォンも演奏出来ます。サクソフォンの他にもクラリネットやフルートの演奏もします。たくさんの楽器を練習するのは大変ですが、うまく演奏できるようになった時の喜びは大きく、日々練習を続けています。

### 向山周作 [サクソフォン]



私がサクソフォンと出会ったのは中学校の吹奏楽部への入部がきっかけでした。体験入部の期間はトロンボーンを吹かせてもらっていましたが、先生から下唇が分厚いという理由でテナーサクソにパート変更になりました。いざサクソフォンを吹いてみると指もわかりやすく、音も出しやすいということもあり、次第に楽器を吹くのに夢中になっていきました。中学3年生のときのソロコンテストに出場した事をきっかけに、もっとサクソフォンを勉強してみたいという気持ちになりました。その後も勉強を続け国立音楽大学に入学し、オーケストラとの共演や新人演奏会への推薦などをしていただきました。現在は東京を拠点にソロ、室内楽、吹奏楽などの演奏活動をしています。

### 小田島航太 [サクソフォン]



小学生の頃はリコーダー少年、いろんな曲を演奏して遊んでいました。サクソフォンを始めたのは中学生の吹奏楽部がきっかけです。パーツが多くキラキラしているその楽器がカッコいいと始めました。リコーダーと指遣いが一緒なのですぐにバラバラ吹けました。その後もサクソフォンを続け国立音楽大学に進学し、卒業した後はイギリスでも勉強しました。今はクラシックのサクソフォンを教えながら、演奏活動もしています。

## New Face!

昨年より、ミュージック・シェアリングの訪問コンサートの仲間入りをした3サクソフォーンズです。オーケストラの中でも一段と光って大きい、そして重い楽器ですが、その音色の優しいこと。あったかいこと。それに皆さんになじみあるフルートが加わって室内楽も演奏します。もちろん毎日元気に根気よく何度も何度もよい音を求めて練習するのですが、一番つらいのは、満員電車で乗り込むときです。どうしてかって???



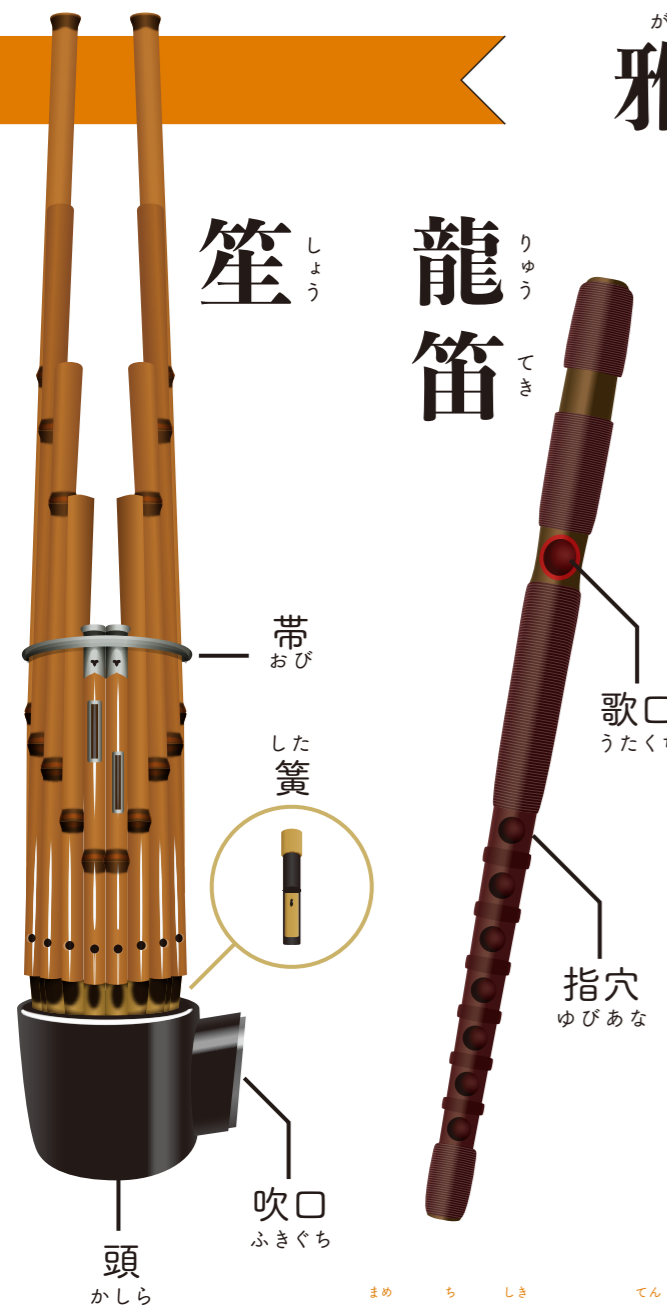


# 雅楽

笙 しょう

龍笛 りゅうてき

篳篥 ひちりき



## 楽器紹介

毎年お正月や、結婚式などのおめでたい時になると耳にするあの、ぶお〜〜〜ん…という独特な音楽。ゆったりとしているながら、しゃきっとさせてくれるようなあの曲は『雅楽』といわれるジャンルの音楽です。雅楽は1300年くらい昔から現在に至るまで、日本で伝承されています。儀式のなかで、また天皇や貴族の楽しみとして、演奏されてきました。雅楽には、大陸から伝えられた音楽や舞と、日本で創られた音楽や舞の両方が含まれています。それらが長い年月を経てまとめられ、日本独自のものとなりました。

雅楽は、3種類の管楽器と2種類の絃楽器、そして3種類の打楽器で演奏します。このスタイルを「三管両絃三鼓」と呼び、様々な自然の素材を組み合わせた楽器は、それぞれ独特な音色がします。今回はその内の三管を表す3つの管楽器を演奏します。

## 豆知識～天上の音楽「雅楽」

みなさんが知っている十円硬貨。その表面に描かれている、京都にある平等院鳳凰堂は、約960年前に建てられた国宝です。そのお堂の天井近くの壁には、たくさんの菩薩様が雅楽の楽器を持って飛んでいる様子を表した「雲中供養菩薩像」があります。「阿弥陀経」というお経では、極楽(天国)のことを「美しい天の音楽が流れる場所」と表していました。昔の人は、雅楽の音を聴きながら極楽を想像していたのかもしれませんが。

## 演奏予定曲

唐楽「越殿楽(えてんらく)」、朗詠「嘉辰(かしん)」

## 博士のつぶやき

メンバーの龍笛奏者が今回から野さんにかわりました。このプログラムでは西洋から伝わった楽器、曲が主に演奏されるのだが、雅楽はそうじゃない。装束\*を見てわかるじゃろう?だからといって、日本古来の曲しか演奏しないってわけじゃない。もしかしたらみんなの知っているホラあの曲が登場、ってこともあるぞ。心を浮か立たせるというより落ち着かせる、そんな音楽だと思いが皆にはどう聴こえるだろう。感想を待ってるぞ。(\*しよぞく——特別な儀式、行事に用いられた貴族や武士の服装。ドレスやタキシードみたいなものじゃな)



## 石川高 [笙]



高校生の時に、皇居で行われる雅楽の演奏会を聴きにゆき、輝かしくて力強い雅楽の響きに深く感動しました。色々な雅楽の楽器のなかでも、とくに笙の不思議な音色に魅力を感じて、御稽古に通うことになりました。宮田まゆみ先生、豊英秋先生に笙を教えていただき、芝祐靖先生からは、合奏のことや雅楽の歌謡を習いました。日本各地とヨーロッパなど世界中で演奏しています。雅楽は千年以上の昔から、たくさんの音楽家によって伝え継がれてきました。その人たちが何を信じ、どの様に感じていたのか、興味があります。今の私達と変わらないところもあると思いますし、私達が失ってしまった感覚や考えもあると思います。勉強したいことが、まだまだいっぱいあります。先生方から教わったことを大切に、よい演奏を続けてゆきたいと思っています。

## 中村仁美 [篳篥]



子どもの頃はピアノを弾くのが好きでしたが、日本音楽はほとんど聞くことがありませんでした。大学で雅楽に出会い、先生の吹く音色の素晴らしさに感動し、篳篥を吹いたり合奏したりすることが楽しくなって、演奏活動を始めました。日本だけでなくヨーロッパやアメリカでも雅楽を演奏しています。また雅楽古典だけでなく、篳篥の豊かで力強く滑らかな音色を生かした新曲を作曲してもらってリサイタルで演奏し、CD「胡笳の声」等に収録した活動が評価されて、松尾芸能賞新人賞をいただきました。国立音楽大学で雅楽を教えるほか、アメリカのコロンビア大学の学生も指導しています。雅楽演奏団体「伶楽舎」のメンバーです。

## 野護元 [龍笛]



10歳の時にCDで雅楽を聴き、とても面白い音楽だな、自分も楽器を吹いてみたいと思い11歳から龍笛を手にして習い始めました。すっかり雅楽が大好きになってしまい、東京藝術大学に進学し雅楽を専門的に勉強しました。大学では龍笛のほかに、舞、歌、琵琶の演奏なども勉強しました。卒業後は龍笛をはじめ、舞、琵琶でも舞台上立つようになりました。練習することが多くとても大変ですが、様々な楽器や舞に触れる中で雅楽の演奏の面白さをより深く感じる事ができています。今は伶楽舎に所属して国内のみならず海外でも演奏をしています。海外の方にも日本の文化を紹介できることがとても嬉しいです。

## New Face!

この度、新たに雅楽のメンバーとして加入いたしました野護元といいます。これから様々な場所で演奏させていただくこと、とても楽しみにしております。さて、みなさんは日本の音楽、伝統音楽と呼ばれる音楽についてどんな印象をお持ちでしょうか? 「伝統」と聞くとなんだか背筋を伸ばして聴かなければいけない様な、窮屈なイメージを持ってしまいませんか。では、雅楽が日本に渡ってきた当初はどうだったでしょうか。現在、雅楽と呼ばれる音楽の多くは千年以上前に大陸から伝わった外来音楽です。伝わってきた当時、日本の音楽界では「New Face」だった訳です。海の向こうから渡ってきた新しい音楽、初めて見る楽器、初めて聴く音色に当時の日本人はきっとワクワクしたと思います。千年に渡り受け継がれ続け、伝統音楽という位置付けになりましたが、今を生きる我々演奏者が奏でる生の音はいつでも新しく、新鮮なものです。雅楽を初めて聴く皆さんも、「伝統音楽」というやや堅苦しい認識から少し離れ、楽器の音色やメロディに耳を傾けてみてください。きっと新たな発見があることでしょう。